55年度当初予算案
厳しい内容の66億円
伸び率は九・五パーセント

五十五年度一般会計予算案の編成事務が、ほぼ終わりましたので、その概要を財政課に聞いてみました。

予算は、歳入・歳出ともに総額六十六億円となり、五十四年度当初予算に比べると五億七千万円、九・五％の伸びにとどまりました。

五十四年度当初予算の伸びが二五・六％であったのに比べると、五十五年度予算の伸びは、きわめて低く、しかもその内容は、厳しいものとなりました。

五十五年度予算の内容が、きわめて厳しくなった理由は政府予算が、これまでの景気浮揚型から財政再建型に一転したことにより、市の主要財源である地方交付税の伸びがこれまでのように望めなくなったこと、国庫支出金が五十四年度当初予算より少なくなったことなどによります。

このような理由から、市税等の歳入については、見込める限りの収入を当初から計上しました。このため、五十五年度予算は、追加補正の余裕のないきゆうくつな通年型の予算になりました。

五十五年度一般会計予算案の編成事務が、ほぼ終わりましたので、その概要を財政課に聞いてみました。

予算は、歳入・歳出ともに総額六十六億円となり、五十四年度当初予算に比べると五億七千万円、九・五％の伸びにとどまりました。

五十四年度当初予算の伸びが二五・六％であったのに比べると、五十五年度予算の伸びは、きわめて低く、しかもその内容は、厳しいものとなりました。

五十五年度予算の内容が、きわめて厳しくなった理由は政府予算が、これまでの景気浮揚型から財政再建型に一転したことにより、市の主要財源である地方交付税の伸びがこれまでのように望めなくなったこと、国庫支出金が五十四年度当初予算より少なくなったことなどによります。

このような理由から、市税等の歳入については、見込める限りの収入を当初から計上しました。このため、五十五年度予算は、追加補正の余裕のないきゆうくつな通年型の予算になりました。

▽市債は、総額の一二・六％に当たる八億三千百万円で、五十四年度当初予算に比べて二億六千五百三十万円の増加です。増加分は、早通南小体育館の建設、笹山小の一部改築など学校建設事業や木崎野球場の建設事業などによるものです。

▽県支出金は、三億四千二百六十三万円です。

▽諸収入は、三億三千七百六十三万円です。

▽地方交付税は、総額の二五・一％に当たる十六億五千五百万円です。五十四年度当初予算に比べて、わずか三千万円の増加です。

▽市税は、総額の二三・一％に当たる十五億二千八百十五万円です。五十四年度当初予算に比べて二億八千三百二十二万円と、大幅な増加を見込みました。

▽国庫支出金は、総額の一四・二％に当たる九億三千七百五十三万円ですが、五十四年度当初予算に比べて一億七千九百九十九万円少なくなっています。

▽市債は、総額の一二・六％に当たる八億三千百万円で、五十四年度当初予算に比べて二億六千五百三十万円の増加です。増加分は、早通南小体育館の建設、笹山小の一部改築など学校建設事業や木崎野球場の建設事業などによるものです。

▽県支出金は、三億四千二百六十三万円です。

▽諸収入は、三億三千七百六十三万円です。

このほか、電源立地促進対策交付金一億二千八百万円などを見込みました。

歳出の性質別の比較は、次のようになっています。

▽消費的経費は、総額の五八・三％に当たる三十八億四千五百七万円です。経費節減のため、人件費、物件費、維持補修費などは極力抑え、それぞれ五十四年度当初予算の構成比率以下にしました。しかし、起債の償還に充てる公債費は年々増加し、五十四年度当初予算の構成比を上回りました。

消費的経費の内訳は、次のとおりです。

人件費十五億七千五百六十三万円、扶助費七億八千二百二十七万円、物件費五億九千九百一万円、補助費四億二千七百七十四万円、公債費三億七千六百五十二万円、維持補修費八千三百九十万円。

▽普通建設事業費は、総額の三六・四％に当たる二十四億三百七十九万円で、五十四年度当初予算の構成比三七・三％を下回りました。

普通建設事業費の内訳は、国や県の補助事業費九億五千九百八十九万円、市単独事業費十四億四千三百八十九万円です。五十四年度当初予算に比べると補助事業費が二二％減少し、単独事業費が四二％増加しました。市の負担分が増加したことになります。

事業の内容は、先月号でおしらせした実施計画に計上したものが主体となっています。

▽積立金・貸付金など、その他のものは、三億五千百十五万円です。

目的別歳出の主なものの予算額と、五十四年度当初予算に対する伸び率は、次のようになっています。予算総額の伸びが九・五％の伸びで、当初から積極的な姿勢を示しています。

○民生費十五億二千二百五十万円　伸び率八・九％

○農林水産業費四億一千三百七十九万円　伸び率五〇・五％

○土木費十億一千七百七十六万円　伸び率一一・六％

○教育費十三億七千六百四十九万円　伸び率一六・七％

五十五年度の予算案は、通年型の厳しいものですが、今後予想される電気料金や石油類、建設資材等の値上がりによっては、さらに厳しくなるものと予想されます。

中川精治さん死去

元議会議長の中川精治さん（白新町二丁目、七八歳）が一月二十五日亡くなられました。

中川さんは、昭和二十二年四月に葛塚町議会議員に初当選し、以来豊栄町、豊栄市を通じて、連続七期、二十八年間議会議員として活躍しました。この間、五回議長に選任され、地方自治の向上、市の発展に尽力。このほか、葛塚町商工会長の役職にあって、郡商工会連合会会長、県連合商工会長を歴任しました。

これらの、多くの功績により、四十八年に市功労者として受彰、五十年には勲五等双光旭日章を受章されています。

なお、中川さんは、二月十九日付で正六位に叙せられました。

市内の至る所で、不法駐車が目立ち、市民からの苦情が相次いでいます。

特に、降雪期は、違反車が多く、交通渋滞や除雪等に重大な支障をきたしています。

市条例でも、住民等の責務として〝道路等の使用を防害し、又は被害を与えるおそれのある自動車等物件の放置、その他の行為をしてはならない〟と厳しく規定しています。つまり、駐車禁止区域で、駐車している車を、除雪の際、運悪く、物損したとしても、その責任は負えない場合があります。

このように、あとをたたない不法駐車について、関係者から現場の声を聞いてみました。

不法駐車はダメです

いけない自分さえよければ

豊栄警察署交通課長　阿部文吉さん

「実は、今も、ある市民から〝違法駐車だから、早く動かしてほしい〟という連絡で署員が飛んで行ったところです。これは、不法駐車のみならず、違反することは、マナーの問題でしてね。ダメな人は、本当にダメなんですね。自分さえよければという主義なんです。当署は、駐車違反した場合、レッカー車がないもので、移動させることができないんです。それで、違反車は、ナンバーを控え、署へ出頭してもらっているんですが降雪期になると、特に不法駐車が、目立つようですね。取締る立場からすると、〝わずかな注意〟があれば、イヤな体験なんかしなくともいいんですがねえ。今後は、道路管理者と、連けいをとり、どしどし取締る方針です」

不法駐車はお手あげ

市建設課長　蒲沢豊彦さん

「一月の中旬からの大雪で除雪作業がフル回転しましたが、その時、特に感じたことは、不法駐車が、とても多いということです。除雪は、朝の三時から始めるのですが、車が試いてあると除雪できないんです。しかも、車の所有者がわからない場合が多く、グレーダーに乗っている人なんか、本当に困ってしまいます除雪しなければ、〝どうしてここだけしないんだ〟と言われますしね。駐車禁止区域での路上駐車は、放置物件とみなして、その措置を検討しています。そのため、警察と連絡をさらに密にしていきたいと思います。また、除雪すると、自分の玄関前が山になるんですね。そうすると〝せっかく雪除けしたのに〟と苦情が相つぐんです。気持はわかりますが、自分のところは、各々やっていただきたいですね。とにかく、駐車違反は困ります」

一刻一秒の問題

市消防警長　藤田清三さん

「消火や急患輸送などの仕事が主ですが、不法駐車にはほとほと困っています。実際にあった例ですが、〝火事だ〟ということで、現場へ急行したんですが、一団となって、車が駐車しているんですね。ヤジ馬の車もあったでしょうが、現場へ着くのがおそくなり、困ったことがあります。また、消火栓や防火井戸の近くに、車が駐車しており、消防車を脇につけられなかったこともあります。消火や急患は、一刻一秒を争うものですから、初動の措置は大切でしてね。団地なんかも車がたくさんあります。救急車の要請があっても、患者の近くまでいけない場合があります。駐車も、時と場合には、止むを得ないこともあるでしょうが不法駐車だけは、絶対しないよう心がけましょう」

五十五年度
新入学児童は八百九人

四月に小中学校へ入学する児童生徒数が二月一日現在でまとまりました。

小学校

入学児童総数は八百九人で前年五月一日現在に比べて十八人減少しました。

各学校別では、岡方第一＝四八（五三）岡方第二＝二六（三五）葛塚＝九四（一〇三）葛塚東＝一三八（一五四）太田＝三九（一二六）木崎＝八四（八九）笹山＝三一（三一）横井＝一七（一四）早通南＝二七（二七四）豊栄南＝三九（二九）上土地亀＝二二（一九）です。

これまで増加を続けてきた葛塚東、早通南で入学児童数が減少しましたが、全児童数は四千二百二十五人で、前年より二十六人の増加です。

学級総数は百三十六学級の見込みで、木崎が一学級増で十四学級、早通南が三学級増で三十三学級に、逆に豊栄南では一学級減で七学級になり前年より三学級の増加です。

中学校

入学生徒の総数は六百五十五人で前年（五月一日現在）に比べて八十八人の増加です。

各学校別では、岡方＝七二（七〇）葛塚＝四〇八（三三八）木崎＝一一〇（一一三）長浦＝六五（三六）です。

一年から三年までの全生徒数は一千八百十人で前年に比べて六十四人の増加です。

学級総数は五十学級の見込みで、葛塚が二学級増で他は増減ありません。